



忘れたぶんだけ繰り返す。 泣いたぶんだけ笑える明日に。

松田 哲也 議員

<目黒区平和都市宣言>

戦後70年、阪神・淡路大震災から20年、東北大震災から4年。大戦や震災で失われた命、津波の被害、原発の事故、流した涙、政治はそれを忘れた時に同じ過ちを繰り返す。目黒区平和都市宣言に「目黒区は平和憲法を擁護する」とある。憲法9条があったから、前文「国際社会において名誉ある地位を占めたい」という目的は達成されてきた。憲法9条改憲や集団的自衛権行使の議論があるが、前文「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないよう」平和宣言を改めて強く打ち出す時は今だ。明治大学の鹿島教授は「理

由なく親切にする国」がなければテロの根も絶やせないと利他主義(※)を唱えている。国際情勢も大きく変わってきている中で、改めて宣言を積極的に打ち出す考えはないか。

区長 目黒区平和都市宣言の宣言塔は、老朽化、交通安全上や街の美観などの観点から、平成19年度に撤去した。代わりに区の7つの宣言を記載したパネルを主な区施設に掲示し、普及啓発を行っている。平和都市宣言については、毎年8月に実施している平和祈念のつどいや、平和のための写真・資料展において周知するほか、区報等にも掲載し、多くのかたにご

覧いただけるよう努めている。今年は戦後70年、平和都市宣言から30年の節目であることから、より多くのかたに平和に対する意識の高揚を図れるよう、平和祈念事業を拡充し取り組んでいく。そうした中で、平和都市宣言のさらなる周知についても検討していく。

<目黒区の貯金と借金>

目黒ショック(財政危機)から立ち直るために取り組んできた、事業見直しの緊急財政対策。初期の目的は達成されたとして、多くの項目で見直しが元に戻され予算が付けられる。しかし厳しい財政状況を迎えるのはこれからだ。①年間200億円もの施設維持費に加えて711億円もかかる修繕経費、②生産人口70パーセントが50パーセント、高齢人口20パーセントが40パーセントになり、大幅な歳入減と歳出増になる、③23区で今なおワースト2の財政状況④30年以内に70%の確率で起こる大震災の備え。いずれを取っても手綱を緩める時ではないと考える

が、いかがか。

区長 平成26年度は、事務事業見直しの最終年度として、今後の取組みの検討を進めるため、行政評価の視点を取り入れた事務事業見直しの検証等を実施した。拡充を行っている事務事業もあるが、改めて事業のあり方をゼロベースで判断し、事業等の必要性や効率性を改めて確認し、今後の事業規模や制度を検討したものである。平成22年度や23年度の状況からすると財政状況は改善しているが、災害など不測の事態に対応するための積立基金は、特別区では低い水準にある。中長期的視点で考えると、社会保障費の増大、施設更新経費等への備えが必要であり、緊急財政対策期間終了後も検証作業の課題整理や制度の検証を行いながら、行財政改革を引き続き推進していく。

【用語解説】

※利他主義:自己の利益よりも、他者の利益を優先する考え方。